

## 海外研修視察報告書

令和8年3月6日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員 山田 朋子  
山口 初實  
ごう まなみ  
堤 典子  
饗庭 敦子  
山下 博史  
清川 久義  
鵜瀬 和博

海外研修視察を実施しましたので、次のとおり報告いたします。

1. 日程 令和8年2月16日（月）～2月20日（金）（5日間）

2. 訪問国 オーストラリア・シドニー

3. 調査目的

- ・長崎県へのインバウンド誘致と県産品の流通可能性調査
- ・オーガニック農業・水産市場の状況に係る現地調査

4. 視察内容

別添のとおり

5. 視察により得られた成果及び県政への反映方策

日本とオーストラリアの関係性について理解が深まった。オーストラリアは経済が安定していて購買力も高く、親日であり、長崎県との経済交流や観光客誘致に向けての有望な市場であることがわかった。今後、輸出入の可能性を探り、長崎県として、豪州市場への進出に積極的に取り組むべきではないか。

# 海外視察報告書

## 長崎県議会議員

山田 朋子

山口 初實

ごう まなみ

堤 典子

饗庭 敦子

山下 博史

清川 久義

鵜瀬 和博

以上8名

視察期間 令和8年2月16日(月)～2月20日(金)

(5日間)

視察先 オーストラリア・シドニー

## 1. 視察日程

	月 日	地 名	現地時刻	交通機関	行 程
1	2/16 (月)	長崎空港 羽田空港	14:00 15:15 19:15	JAL612 JAL51	集合 長崎空港発→羽田空港着 羽田空港発→空路オーストラリアへ
2	2/17 (火)	シドニー	06:50  09:30  11:00  15:00	専用車	シドニー国際空港到着 専用車で移動  視察① JTB オーストラリア支店  視察② 日本貿易振興機構 (JETRO)  視察③ 在シドニー総領事館
3	2/18 (水)	シドニー	10:00	専用車	視察④ Bilpin のオーガニック ファーム (ブルーマウンテンズ近郊)
4	2/19 (木)	シドニー	06:00	専用車	視察⑤ フィッシュマーケット
5	2/20 (金)	シドニー 羽田空港 長崎空港	09:15 19:10	専用車 JAL52 JAL615	空港へ移動 空路、羽田空港へ 空路、長崎空港へ 到着後、解散

## 2. 視察調査の概要

### ① JTB オーストラリア支店

- ・ オーストラリアは日本に近く、時差が小さい。親日家が多い。また、世界で4番目に日本語を学ぶ学生・生徒が多い。背景には、指導者が充実していて、日本語を学ぶ環境が整っていることがある。第2言語として学んでいる。
- ・ 日本からオーストラリアへ来るインバウンド旅行者への対応では、7割が修学旅行や語学研修の学生である。
- ・ 訪日観光では、北海道（ニセコのスキーなど）や九州が多い。ゴールデンルートの観光が中心で、東京から西、博多くらいまでが人気となっている。旅行期間は2～3週間、1か月など長期で、1人約30万円を日本に落としている。
- ・ 日本の食や体験が人気である。ウォッシュレットや文化の違いを楽しむ傾向も。オーストラリアのスーパーでは寿司を販売している。巻きずしや手巻き寿司、天ぷらなど。ラーメンや和牛も人気がある。
- ・ 日本へはリピーターが多い。円安、物の価値、値段、品質が素晴らしいと感じている。慣れると、定番ではないところに行く。人の少ない、日本人にもあまり知られていないところや温泉など。
- ・ 旅行先としての長崎は、あまり一般的ではない。九州というひとくくりで人気がある。
- ・ JTBでは、現地の旅行会社に日本の商品を卸す業務も行っている。JRパス、オンライン上の業務など。
- ・ オーストラリアの状況は、シドニー、メルボルン、ブリスベーンなど東海岸は都市型、ケアンズはリゾート地。人口約2,700万人で、出生率は高くない。移民で成り立っている国で、現在は、学歴・英語力・年齢などにポイントをつけて優先的に受け入れる移民政策をとっている。
- ・ オーストラリアは農業大国で、フルーツのピッキング（収穫）などの労働に従事するワーキングホリデーの日本人も多い。時給は3,000円近いが、物価が高い。



#### 【所感】

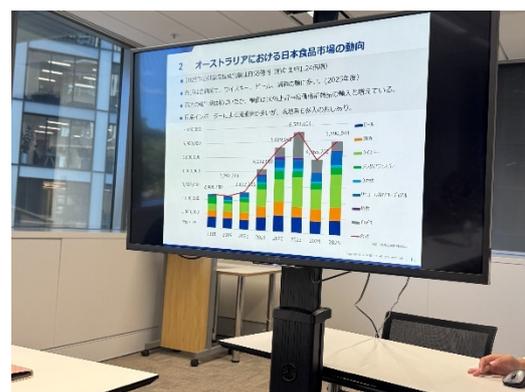
多くのオーストラリア人が日本に親しみを持っている中、まだまだ長崎を目的地とする旅行者は多くない。1回の旅行日数が2～3週間と長期であるため、例えば離島地域の風光明媚な景観や自然、釣りやマリンスポーツ、世界文化遺産めぐりや食の豊かさを紹介し、積極的に観光客の誘致を働きかけることが必要だと思った。

## ② 日本貿易振興機構（JETRO）シドニー事務所

- ・オーストラリアは人口約 2,761 万人の移民国家で、経済は安定成長を続けている。最低賃金は約 24.95 豪ドルと高水準で購買力が高く、高付加価値商品の受容性が高い市場である。長崎県にとっても価格競争ではなく、品質重視型輸出を展開できる有望市場であると感じた。
- ・日本からの農林水産物・食品輸出は拡大しており、2025 年度は 382 億円で世界第 10 位。特に加工食品の伸びが顕著である。長崎県の水産加工品や冷凍技術を活かした商品は十分競争力があると考えられる。
- ・酒類市場ではビール・ワイン消費量が多く、クラフトビール需要も拡大している。県内の日本酒・焼酎・クラフト酒造も、英語表示や現地 PR を強化することで販路拡大の可能性はある。
- ・流通はウールワース、コールスの 2 大スーパーが中心で参入障壁は高い。マージン要求や価格交渉も厳しいことから、県単独企業任せではなく、JETRO 等と連携した継続的な販路支援体制の構築が必要である。
- ・移民増加に伴い日本食市場は拡大傾向にあり、健康志向・高品質志向の商品が評価されている。長崎ブランドの確立と戦略的プロモーションの強化が今後の鍵となる。

### 【所感】

オーストラリア市場は成長性と購買力を兼ね備えた有望市場である。一方で競争も激しいため、長崎県としては「高付加価値型輸出への転換」と「豪州市場への重点的取り組み強化」を進める必要があると強く感じた。



### ③在シドニー日本国総領事館

○資料をもとに、ニューサウスウェールズ州の概要説明を受けた。

- ・日豪の歴史とNSW（ニューサウスウェールズ）州について
- ・豪州各州との比較について
- ・NSW州の特徴について
- ・NSW州経済について
- ・日本とNSW州との貿易について
- ・直接投資と企業について
- ・日豪間の旅行者数について
- ・日本語教育について
- ・NSW州との姉妹都市一覧について

#### 【意見交換内容】

- ・移民政策により、移民が増えていることがわかった。高い人口増加率。20年後に倍増する見込み。その反面、住宅確保問題がある。不動産も高騰。物価高で日本の約3倍。最低賃金は時給2,700円。天然資源が豊富で土地も広大であるが、労働賃金が高く、他国製品に依存している。日本は輸出・輸入ともに上位の貿易相手。各州で経済成長中。投資も順調・しかし、高齢化は進んでいる。日本は人気の旅行先で、親日家が多い。

#### 【所感】

日本とオーストラリアの関係性や国比較等、詳細に理解が深まった。

豪の経済や人口の発展的将来性が確認できたことで、わが長崎県との経済交流など、さらなる可能性があることがわかった。また、親日で日本食ブームや日本のコンテンツの人気度もわかり、今後の交流や輸出入の可能性についても、「長崎県」として取り組みが期待できることがわかった。

#### ④Bilpin のオーガニックファーム

- ・ブルーマウンテンズ近郊 Bilpin のオーガニックファームを視察した。この農園は創業 45 年、25 エーカー（長崎スタジアムシティの約 1.3~1.4 倍）を有し、高齢の男性が一人で経営していた。栽培作物は、にんにく、緑茶、カリン、ブドウ、梨、桃、プラム、レモン、ライム、オレンジ、柚子、菊芋などで、化学肥料を一切使用せず、環境保全型の農業を実践している。
- ・オーストラリアは「オーガニック先進国」と称される。その理由は、
  - ・自然環境に恵まれていて、土壌・水・気候が高品質の作物の生産に適していること。
  - ・オーガニック農地面積が約 5,000 万ヘクタールで世界最大であること。
  - ・厳格かつ国際的な認証制度～書類審査だけでなく実地監査が徹底され、土壌・水・飼料など、トレーサビリティを確保している。違反は即時認証剥奪となる。
  - ・国民の健康志向・環境意識が強く、消費者意識が高いために、オーガニック市場が成熟していること。などが挙げられる。
- ・鳥や小動物の食害があるが、防護のため、例えば果樹にネットを掛けたりすることは、ネットに化学薬品が使用されていることから、行っていないということだった。そのため、収穫できないこともあるとのこと。最近では、食害のない茶の栽培などに力を入れ、生産した茶葉を使った飲料の販売も行っていた。収穫物はオーガニックの農産物を販売するスーパーやオーガニックレストランに卸している。
- ・日本でのオーガニック農業についても、示唆をいただいた。日本ではオーガニック農産物は割高であるとして、あまり理解・普及が進んでいない。しかし、オーガニック農業は、小規模農家でも高齢化社会でも成立しやすい持続可能なモデルであり、若者や移住者が参入しやすい。長崎県は急傾斜地や小規模農地が多く、農業条件は厳しいが、水産県としての特性を活かした「循環型オーガニック」が可能であるということだった。



## ⑤シドニーフィッシュマーケット

- ・本年1月に開業したシドニーフィッシュマーケットを視察した。同市場は南半球最大級の水産市場であり、世界第2位の規模を有する。卸売機能と観光機能を併せ持つ複合型施設として整備されている点が特徴である。
- ・競り方式は、オランダのチューリップ競りを模した吊り下げ型（ダッチオークション方式）を採用している。価格が段階的に下がる仕組みのもと、仲買人が落札操作を行う方式である。仲買人は午前2時頃から事前に現物を確認し、希望商品を把握したうえで、タブレット端末により入札を行っている。取引のデジタル化により、迅速かつ効率的な売買が実現されていた。
- ・取扱量は、日本の豊洲市場が約1,500トン規模であるのに対し、シドニー市場は約53トンである。取扱魚種の大半はオーストラリア産およびニュージーランド産であり、約1%がインドネシア産である。低温管理および衛生基準の徹底により、高度な品質保持体制が構築されている。
- ・また、一般来場者が鮮魚を購入し、その場で刺身やロブスター、牡蠣等を味わえる飲食機能が充実している。市場を観光資源として活用し、ウォーターフロントの立地を生かした滞在型空間を形成している点も特徴的である。

### 【所感】

本視察を通じ、水産業の高付加価値化を図るためには、流通の効率化に加え、「体験」「食」「観光」を一体的に展開する視点が重要であると認識した。今後の地域水産振興に向けては、市場機能の高度化とブランド戦略の強化について検討を進める必要がある。

